

9/26 福研

親子どちの貧困

①

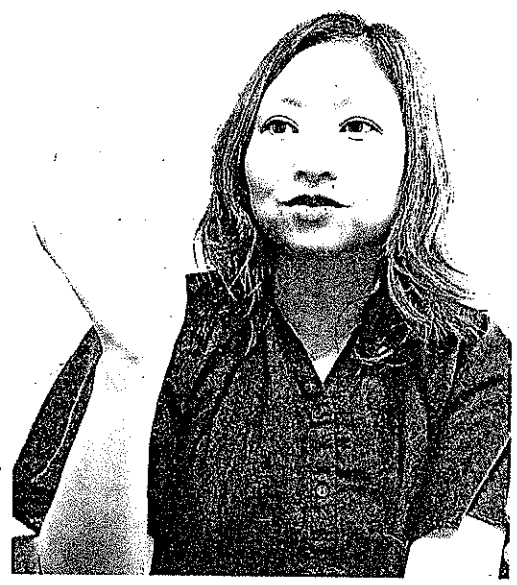
「親に殴られるので帰れない」
 「おなかですいた。何も食べていない」。悩みを抱え、繁華街でさまよう少女たちのこもった声を聞き、保護する活動をしている。貧困、虐待、いじめなどさまざまな困難が絡み合い、援助交際や風俗勤め、自傷行為に追い込まれている。当たり前のように家族や社会

困窮世帯への現金支給や子ども食堂では救えない子が大量にいる。保護した少女たちの周りにいるのは、本来守ってくれるはずの親を含め、暴力を振るったり、自分たちを利用したりする大人ばかり。声を上げられないだけでなく、こうした大人が壁となって支援とつ

ながるこもすくまぬ子もいる。生活保護を受けながら、子ども全員を学校に行かせていない親、収入もあっても一見普通に見えるのに、子どもらしいことを一切させず、食事や日用品を十分与えない親。当たり前のように家族や社会

居場所のない少女を支援するNPO

橘 ジュン代表



たちばな・じゅん 46歳。千葉県生まれ。生きづらさを抱える10代、20代の女性を支援するNPO法人「BONDプロジェクト」代表。著書に「最下層女子校生」

実態伝え続け可視化を

とつながりがあり支えてもらえない人の視点では、分からない困難な状況がある。深刻なのは、こうした親の元で

育ち、大人の年齢になってしまった子たちだ。十分な教育を受けていないので仕事に就けず、貧困が

な支援や保護も受けられない。以前、親のネグレクトで十分な食事を与えられていない17歳の少女か

ら相談を受け、児童相談所につながることを拒否された。私たちのNPOでは支援の枠から漏れ、社会の統計からも外れてしまった子からのSOSを受け止

る。遠く北海道や九州からSOSを送ってくる少女も。誰も頼ることができず、犯罪や性被害に遭ってよりリスクの高い状況に置かれる子が多いという。必要な場合は弁護士らと連携し、一時的に保護して行政機関につなげたり、自立支援のための長期的な保護をしたりしている。

一口メモ

「消えたい」「寂しい」「居場所がない」。NPO法人「BONDプロジェクト」には、貧困や虐待などに苦しむ少女からメールや電話で相談が寄せられ